

空、晴れ晴れとして澄みわたり、天高く、爽やかな秋の訪れを感じる本日ここに、青森県立八戸北高等学校創立六十年記念式典を挙げるに当たり、青森県教育委員会教育委員平間恵美様をはじめ、多数の御来賓の皆様の御臨席を賜り、誠に光栄に存じ、衷心より厚く御礼申し上げます。

本校は昭和三十八年四月七日、八戸市立湊小学校の一隅を仮校舎として開校されました。八戸市内の三番目の県立普通高校がこの地に新設されることは地域住民の切なる願いでありました。翌、昭和三十九年、ここ白銀の丘に新校舎が落成しました。

「学校における主体は生徒である。生徒昇降口を一番立派にする。」という初代校長の学校経営理念を形にした校舎でした。正面二階の真ん真ん中に生徒昇降口が作られました。そこに向かって、高い志を抱く、進化発展の坂を上る、険しい困難にも怯まない、そう願いを込めて掛けられたのが、二十四段の階段、いわゆる「きざはし」であります。

創立四十年を機に改築された現在の校舎にもその理念は引き継がれ、正門から真正面の生徒昇降口続く五段の「きざはし」が設けられた意匠となっています。

初代校長は第一回入学式の式辞で高村光太郎の詩を引用し、「八戸北高校の前に道はない。我々が道を作ろう。その道が北高の歴史となり、伝統と呼ばれるのだ。北高を創るのは我々である。」と一回生諸君の心に火を着けました。開拓者精神・フロンティアスピリット、北高魂の宣言であります。

生徒を中心に置く北高の校風は創立以来不易であり、原点です。北高教育の真骨頂は、学ぶ者に自律した自由を求め、挫けそうな者にはあたたかな手を差し伸べるところにあります。「秩序と責任の中での自由」「秩序ある自由」、「一人も捨てない教育」です。

本校は、昭和から平成、令和へと続く時代の流れの中、幾多の変遷を経て参りました。

卒業生は一万八千二百十四名を数えるに至り、多岐にわたる分野での御活躍と社会への御貢献に対し、深く敬意を表するものであります。

昭和四十四年度に設置され、その後三十九年間続いた理数科、平成十七年度に文部科学省から指定を受けたスーパーサイエンスハイスクールとして、二期連続の十年間にわたり取り組んだ多様な学習活動は貴重な教育資産として、そのエッセンスは今日に継承されております。現在は進学重視型の単位制高校として、生徒が自らの進路目標を達成するため、きめ細かな指導のあり方に様々工夫を重ね、生徒の可能性を引き出し、自ら伸ばしていけるよう努めているところです。

創立から六十年。

本校は先進校に肩を並べるといふより、むしろ、北高として確乎たる独自の地歩を固めたといふべきでありましょう。本校教育の発展充実のため、叡知と熱意をもって努力を傾けられた歴代校長並びに旧職員の皆様、また、よき伝統を築き上げてこられた同窓の皆様の存在こそ、今日の北高をかくあらしめた大きな力であったことを、私たち職員、生徒一同、深く心に記したいと思ふのであります。

今、本校も、数年来のコロナ禍で数限りない制限を受けております。本日の式典にも全生徒が一同に会することは未だ能わず、二年次生諸君は各教室、一年次生は第二体育館でオンラインによる参列となっていることは無念という他ありません。

しかし、目の前の困難を乗り越えようとの気概をもって日々の教育活動に努め、工夫し続けている教職員、それに応えようと勉学に部活動にと、様々な教育活動に一生懸命に取り組んでいる生徒諸君とともに、ここ北高にいることを私は誇らしく思わずにはられません。

さて、青森県下、校訓を掲げていない高校は本校以外にありません。校訓がないとなれば、何ものにも縛られないという意味のみにおいての薄っぺらな自由に流れかねません。正面玄関前のロータリーに立つ石碑に、校歌結びの句、「北はきびしく きよきもの」と、背面には「心のとりでのために」との文字が刻んであります。四回生卒業の記念として建立されたものです。校訓がないことで、消極的な自由に閉じこもらず、安きに流されず、自己を信頼し、気高き己自身を堅持する言葉として刻まれたものであります。

生徒諸君、皆さん一人一人にそれぞれ無限の可能性が潜在しています。これまで学校現場では、知識を覚え込むことのみを重視した時代がありました。これからは、諸君自ら課題を見つけ、仲間と支え合い学び合いながら、自ら調べて考える主体的で実践的な学びが重要になってきます。

人には、自身に潜在する資質・能力を自ら高めていく力が備わっています。人は、ふとした出来事をきっかけとして目を瞠る成長を遂げることはままあることです。「未来 拓かん」「未来 担わん」の意気高く、予測困難な未来に立ち向かう土台を、うぬぼれてはならない揺るぎなき自信を、ここ北高で仲間と切磋琢磨し合い、たしかなものとしてほしいと願っています。

そう、仲間と。

「きざはし」を、肩を寄せ合い、時には手を取り合って、一段一段昇るがごとく。

「冴えたり 北空」と凜として始まり、「北はきびしく 清きもの」と力強く、厳かに結ばれる我らが校歌。今日は「思いを乗せて」声高らかに斉唱し、互いに心通わせ、仲間と共に更に前に進む決意を新たにしようではありませんか。

終わりに臨み、創立六十年記念事業実行委員会をはじめ、関係各位からいただきました物心両面にわたる御厚情は誠にありがたく、深甚なる感謝を申し上げます。また、これまで御理解と御協力をいただき、本校をここまで育ててくださいました父母と教師の会、後援会及び同窓会をはじめ、本校に関わってくださっている全ての皆様に心から御礼と感謝を申し上げます。

今後とも、本校への御支援御鞭撻を賜らんことをお願い申し上げ、式辞といたします。

令和四年十月一日

青森県立八戸北高等学校

校長 種市 朋哉